

2019年度愛知県がんセンター公開講座(第2回)のご案内

「令和元年 免疫療法と最新の高精度放射線治療」

= 令和元年7月6日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「陽子線治療の現状」

陽子線治療は、病変の深さで放射線を止めることができる新しい放射線治療で、正常な部分に照射される放射線の量を少なくすることで副作用を減らす一方で、がん照射する線量は強くすることでがんの治る確率を高めることを目指した治療です。名古屋陽子線治療センターは7年前に診療を開始し、これまで肺癌や肝臓がん、前立腺癌などに治療を行ってきました。現在は前立腺癌、頭頸部腫瘍の一部、小児腫瘍などでは健康保険が使えるようになっています。これまでの当院での取り組みを中心に陽子線治療の解説を行います。

名古屋陽子線治療センター長 荻野 浩幸

< 講師からのメッセージ >

「広がる免疫治療の適用-肺がんを中心に-」

進行した肺がん患者さんには、2015年12月から免疫治療薬であるオプジーボが使えるようになりました。さらに、抗がん剤と免疫治療の併用療法も2018年12月から使用できるようになりました。また、肺がんが胸の中だけにとどまっている場合(局所進行肺がん)には、放射線治療と抗がん剤治療を併用して治療しますが、2018年7月からは、放射線と抗がん剤の治療後に免疫治療薬であるイミフィンジを使用しています。今回は、肺がん治療に起きている大きな流れの変化について解説したいと思います。

呼吸器内科部 医長 清水 淳市

< 講師からのメッセージ >

「高精度放射線治療の現状と免疫療法併用への期待」

放射線治療は装置やコンピュータの進歩は目覚ましく、高精度放射線治療とよばれる強度変調放射線治療や定位照射という方法をつかって病変にピンポイントに有効で安全に放射線治療を加えることができるようになってきました。また最新の薬物療法である免疫療法との組み合わせは放射線治療の効果を引き上げることに加えて、体の免疫力をつかって放射線が当たらない場所にも治療効果をたかめることが期待されています。

当院での高精度放射線治療のとりくみと最新の薬物療法との組み合わせへの新しい情報を中心にお話したいと思います。

放射線治療部 部長 古平 毅